

2016年度第3四半期決算

取締役 兼 執行役員常務

財務・調達本部長 兼 グループ・グローバル経営推進本部長

荻原 弘之

2017年2月3日

古河電気工業株式会社

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の実事に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

2016年度Q3累計のポイントと通期予想

Q3累計

- 営業利益は **238億円と前年比+69億円(+41%)**

営業利益率は **3.9%と前年比+1.3%**

- **円高進行の影響を受けたものの、情報通信ソリューション（インフラセグメント）を中心に、全社で大幅実質増益+109億円**

銅箔事業（機能製品セグメント）の構造改革効果等も増益に寄与

- 当期純利益は **189億円と前年比+128億円 (+208%)**

- **持分法投資損益の悪化があったものの、営業利益の増益に加え、固定資産売却や電力事業での事業譲受に伴う負ののれんなど特別利益の計上等により、大幅増益**

通期予想

- 下記のとおり**上方修正**

*1: 前回予想：16Q2決算発表時の予想 (単位：億円)

	15年度	16年度			
	実績	前回予想 *1	今回予想 *2	前年比	前予比
売上高	8,749	8,200	8,250	▲ 499	+50
営業利益	271	290	320	+49	+30
経常利益	187	255	285	+98	+30
当期純利益	100	125	160	+60	+35

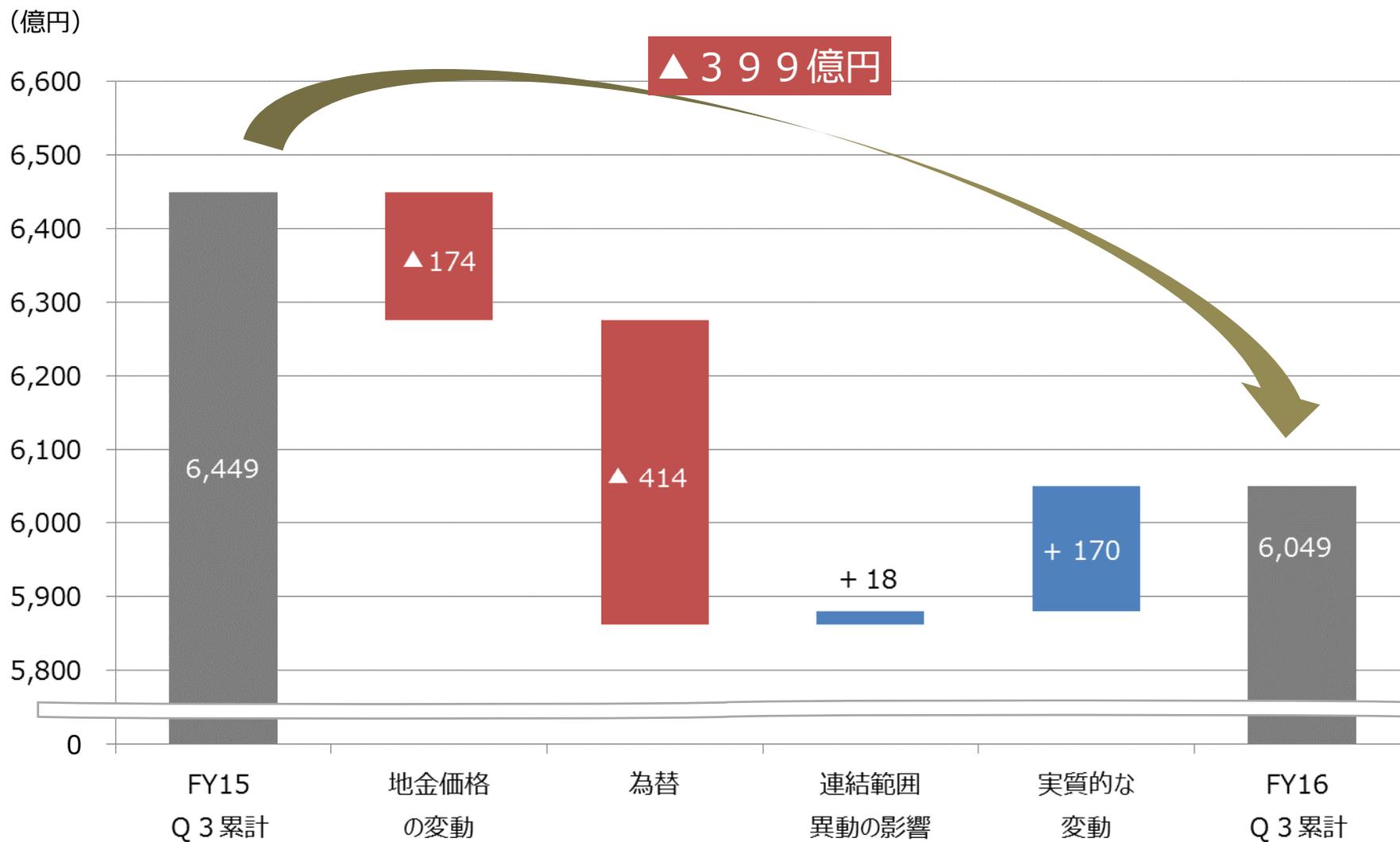
*2：Q4予想前提 為替 前回100円/米ドル⇒今回110円/米ドル 銅建値 前回510円/kg⇒今回625円/kg

FY16Q3決算…要約P&L

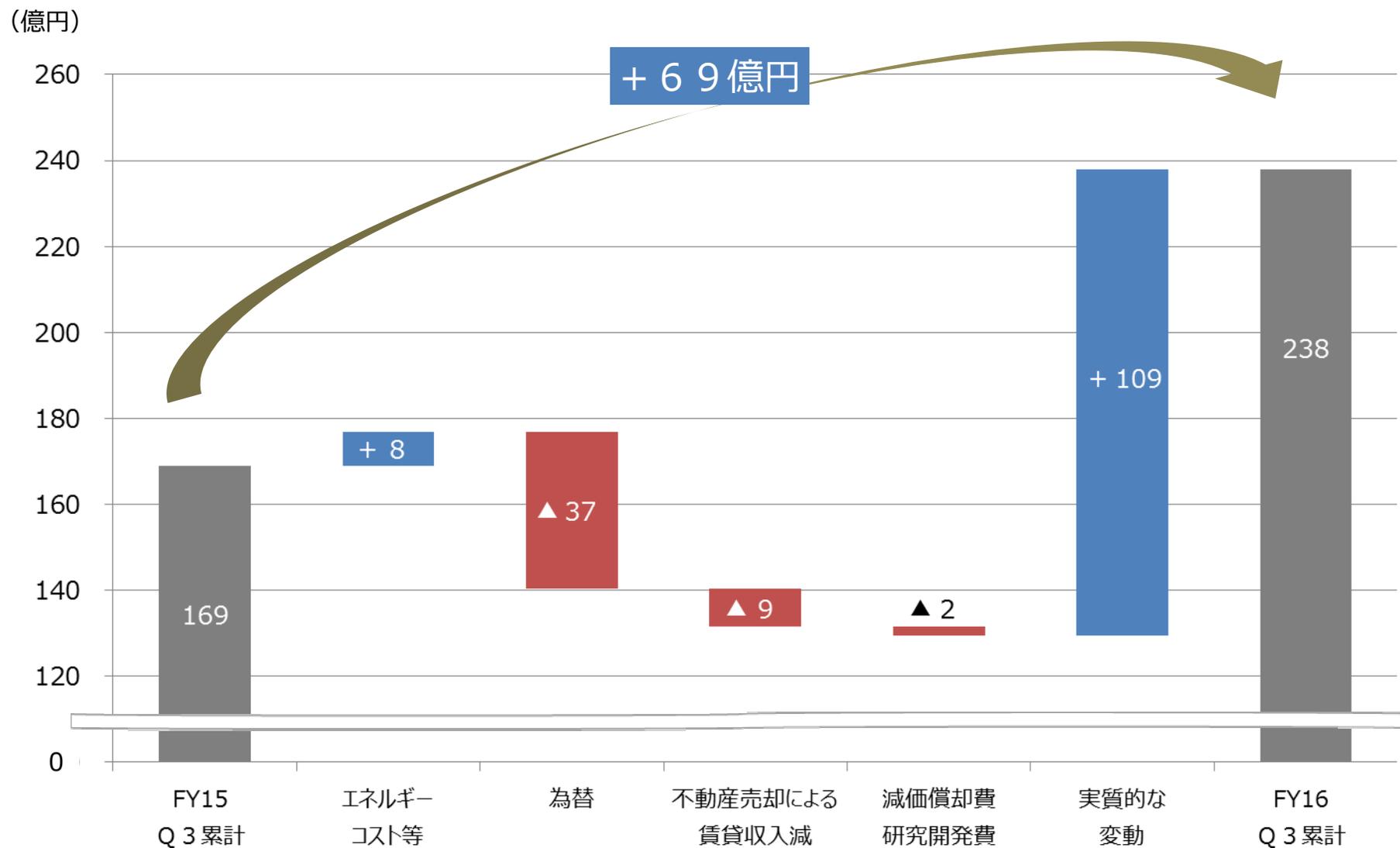
(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY15Q3累計		FY16Q3累計		前同比増減		主な増減内訳 (Q3累計前年比)
	a	b	c	d	c-a	d-b	
売上高 (増減率)	6,449	2,167	6,049	2,074	▲ 399 ▲6.2%	▲ 93 ▲4.3%	3ページ参照
営業利益 (売上高比率/増減率)	169 2.6%	78 3.6%	238 3.9%	105 5.1%	+69 +40.6%	+27 +35.2%	4ページ参照
持分法投資損益	13	8	▲ 5	6	▲ 17	▲ 2	
為替損益	▲ 12	▲ 6	▲ 12	0	0	+6	
経常利益 (売上高比率/増減率)	163 2.5%	83 3.8%	208 3.4%	106 5.1%	+45 +27.6%	+23 +27.3%	
特別損益	▲ 29	▲ 13	77	61	+106	+74	・特別利益：+102 (11→113) ・特別損失：+5 (▲40→▲36)
法人税等	51	18	65	35	+14	+17	
非支配株主に帰属する 当期純利益	22	11	32	11	+10	0	
親会社株主に帰属する 当期純利益 (売上高比率/増減率)	61 1.0%	42 1.9%	189 3.1%	122 5.9%	+128 +208.3%	+81 +193.5%	
銅建値 平均	706	642	570	622	—	—	
為替 平均	122	121	107	109	—	—	

売上高の増減要因（前年同期比）



営業利益の増減要因（前年同期比）



FY16通期予想見直し…要約P&L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY15 実績	FY16 前回予想	FY16 今回予想	前年比 増減	前予比 増減
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	8,749	8,200	8,250	▲ 499	+50
営業利益	271	290	320	+49	+30
(売上高比率/増減率)	3.1%	3.5%	3.9%	+0.8%	+0.3%
持分法投資損益	▲ 57	—	—	—	—
為替損益	▲ 21	—	—	—	—
経常利益	187	255	285	+98	+30
(売上高比率/増減率)	2.1%	3.1%	3.5%	+1.3%	+0.3%
特別損益	27	▲ 6	10	▲ 17	+16
法人税等	79	—	—	—	—
非支配株主に帰属する当期純利益	34	—	—	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	100	125	160	+60	+35
(売上高比率/増減率)	1.1%	1.5%	1.9%	+0.8%	+0.4%
銅建値 平均	676	527	※1 584	—	—
為替 平均	120	103	※2 107	—	—

(※1 Q3累計実績：570 Q4前提：625) (※2 Q3累計実績：107 Q4前提：110)

セグメント別売上高及び営業利益

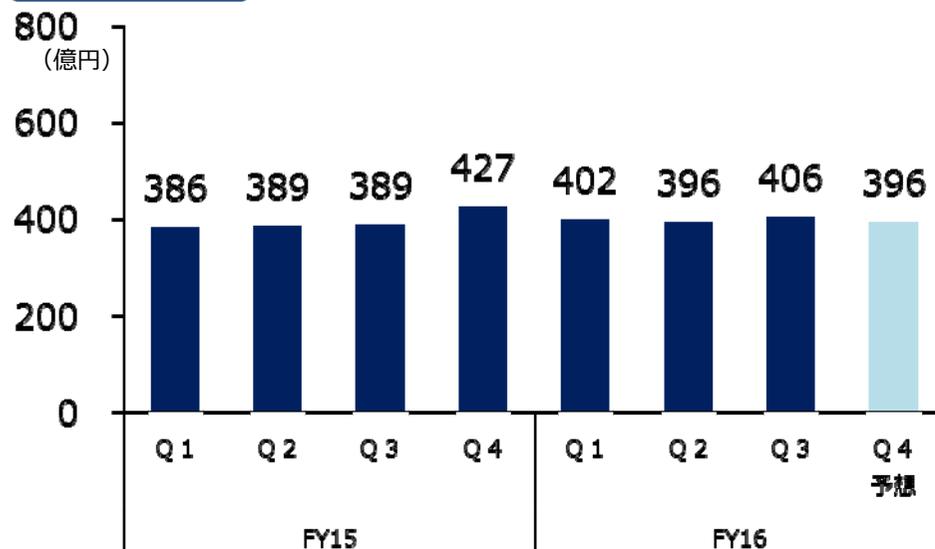
(単位：億円)

上段：売上高 下段：営業利益	Q3累計			通期				
	FY15	FY16	前年度比	FY15	FY16 (前回予想)	FY16 (今回予想)	前年度比	前予想比
インフラ	1,860	1,874	+14	2,527	2,550	2,550	+23	0
情報通信ソリューション	1,164	1,204	+40	1,591	1,600	1,600	+9	0
エネルギーインフラ	696	670	▲ 26	935	950	950	+15	0
電装エレクトロニクス	3,614	3,282	▲ 332	4,911	4,450	4,500	▲ 411	+50
自動車部品・電池	1,688	1,589	▲ 99	2,341	2,250	2,200	▲ 141	▲ 50
電装エレクトロニクス材料	1,926	1,693	▲ 233	2,570	2,200	2,300	▲ 270	+100
機能製品	1,029	1,010	▲ 19	1,363	1,350	1,350	▲ 13	0
サービス・開発等	381	367	▲ 14	515	500	500	▲ 15	0
連結消去	▲ 435	▲ 483	▲ 47	▲ 567	▲ 650	▲ 650	▲ 83	0
売上高	6,449	6,049	▲ 399	8,749	8,200	8,250	▲ 499	+50
インフラ	41	85	+45	77	100	115	+38	+15
情報通信ソリューション	46	95	+49	80	111	125	+45	+14
エネルギーインフラ	▲ 6	▲ 10	▲ 4	▲ 3	▲ 11	▲ 10	▲ 7	+1
電装エレクトロニクス	60	69	+9	105	102	105	0	+3
自動車部品・電池	44	55	+11	80	87	90	+10	+3
電装エレクトロニクス材料	16	14	▲ 2	24	15	15	▲ 9	0
機能製品	66	86	+20	85	100	110	+25	+10
サービス・開発等	2	▲ 3	▲ 5	4	▲ 10	▲ 10	▲ 14	0
連結消去	0	▲ 1	▲ 1	1	▲ 2	0	▲ 1	+2
営業利益	169	238	+69	271	290	320	+49	+30

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

売上高

(事業部門:ファイバ・ケーブル、ファイテル製品、ブロードバンド)



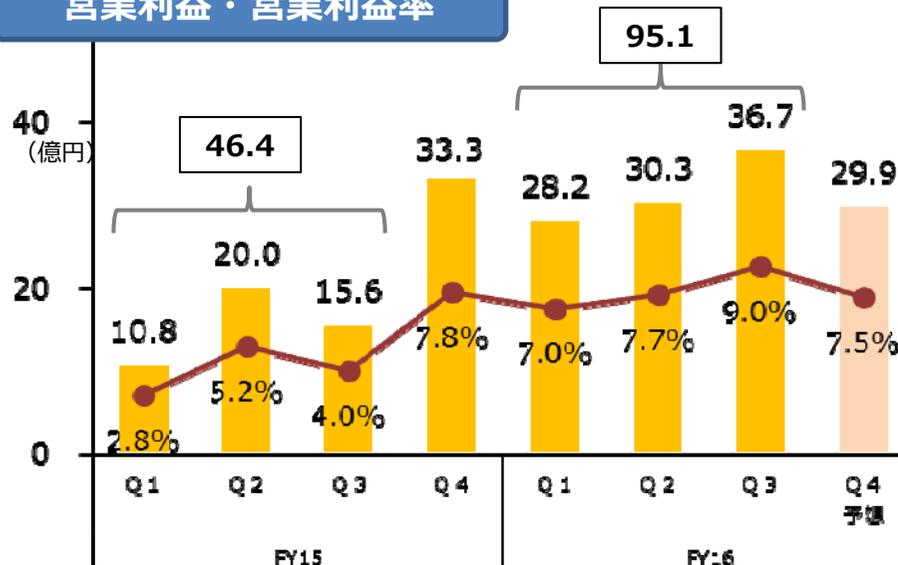
<営業利益の増減内容>

Q3累計：前年差 +48.7億円

□：増益要因 ■：減益要因

- 北米を中心とした光ファイバ需要増に加え、製品ミックスや価格水準も好転
- デジタルコヒーレント関連製品の需要も堅調
- 円高による光ファイバ輸出、在外子会社の為替換算差が、売上・営業利益に影響

営業利益・営業利益率

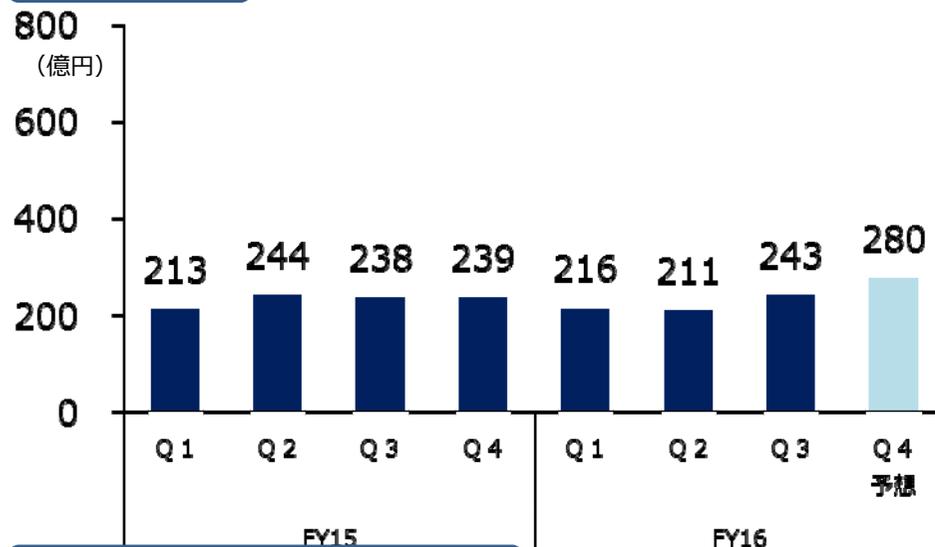


Q4予想

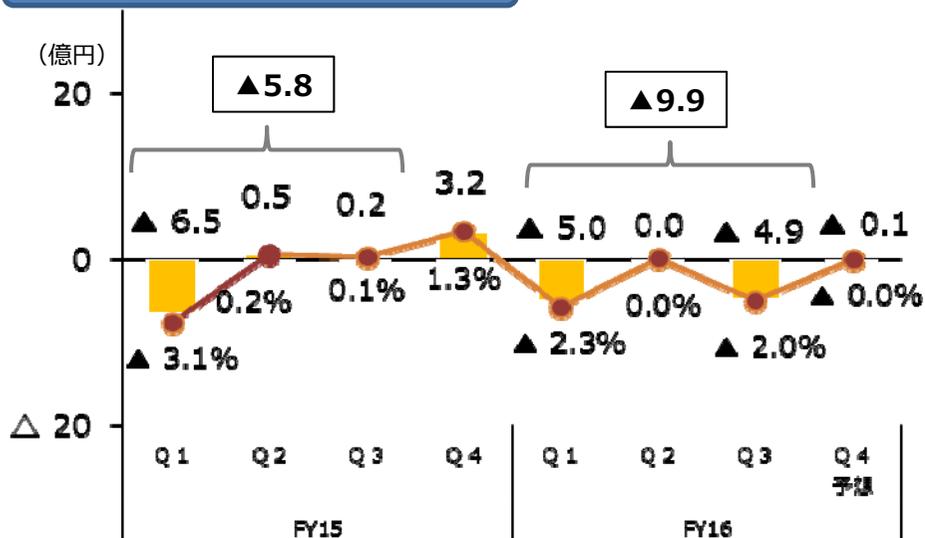
- ・ 光ファイバやデジタルコヒーレント関連製品の需要好調は継続

1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

売上高



営業利益・営業利益率



(事業部門:電力、産業電線・機器)

<営業利益の増減内容>

Q3累計：前年差 ▲4.1億円

□：増益要因 ■：減益要因

- Q3は(株)ビスカスの地中および海底送電事業取り込みに伴い、増収したものの、一時的なコスト増が発生
- 国内電力向け送配電部品が、需要減少

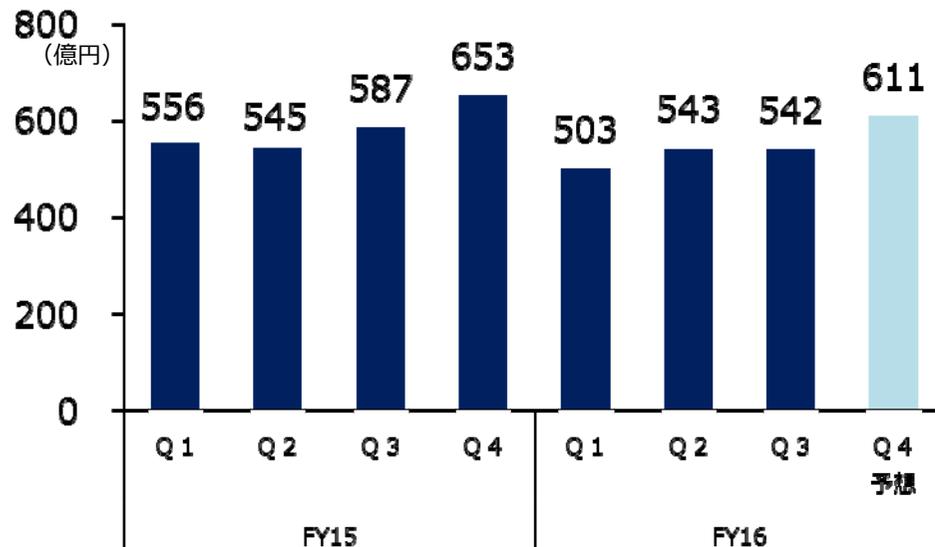
Q4予想

- ・ 国内電力向け超高圧案件の売上を見込む
- ・ 国内電力向け送配電部品は、前年比で減少

2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池) FURUKAWA ELECTRIC

売上高

(事業部門:自動車部品、電池)



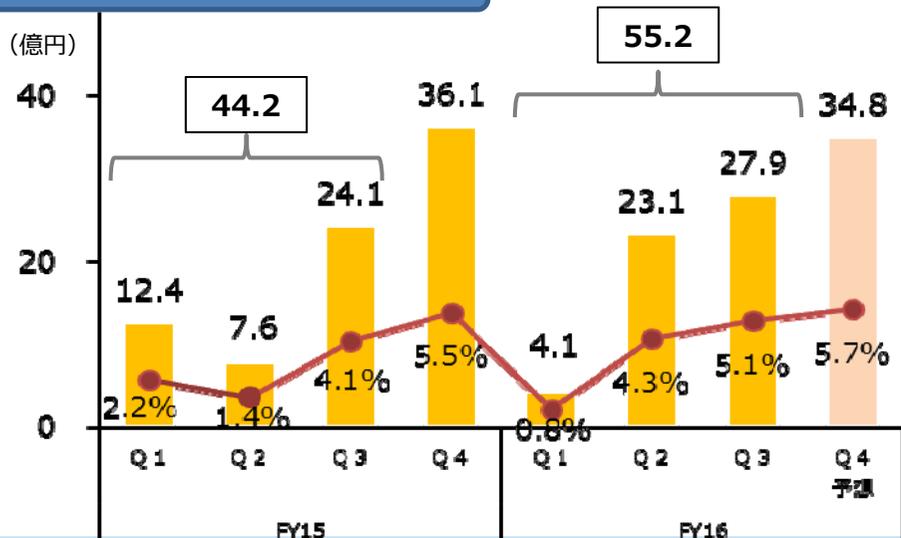
<営業利益の増減内容>

Q3累計：前年差 + 11.0億円

□：増益要因 ■：減益要因

- メキシコ拠点のコスト改善が進み、増益に貢献
- 自動車部品の国内向けワイヤーハーネスが低調

営業利益・営業利益率

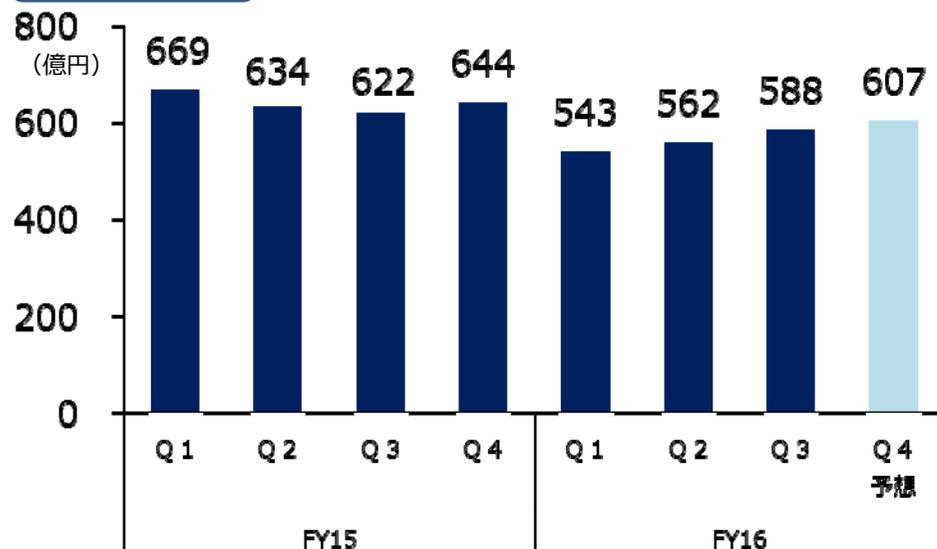


Q4予想

- ・ 自動車部品は、国内向けワイヤーハーネスが減速するものの、海外向け部品が好調
- ・ 電池は、季節性で増益

2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)

売上高



(事業部門: 導電材、巻線、銅条・高機能材、銅管)

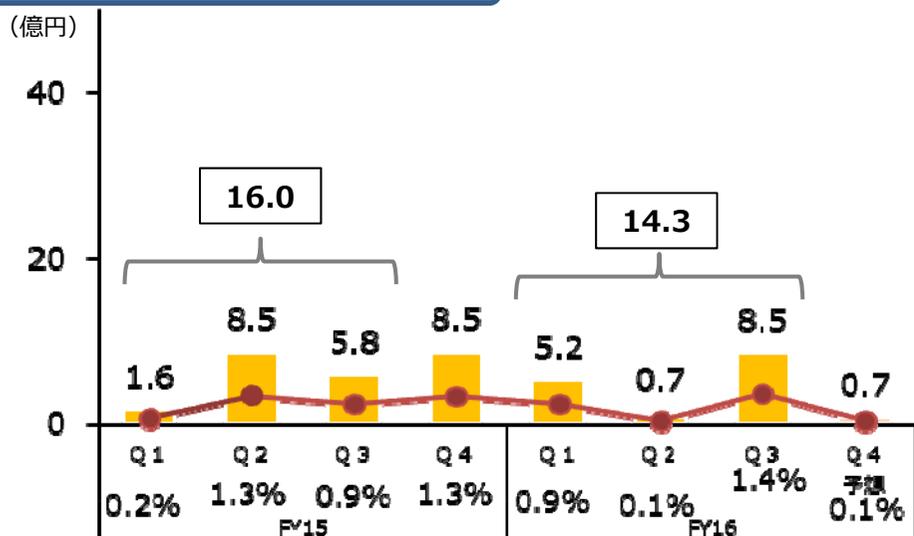
<営業利益の増減内容>

Q3累計：前年差 ▲1.7億円

□：増益要因 ■：減益要因

- 銅条・高機能材の伸銅製品の数量は着実に回復するも、Q2に計上した一時的な開発案件コストを吸収出来ず、減益

営業利益・営業利益率



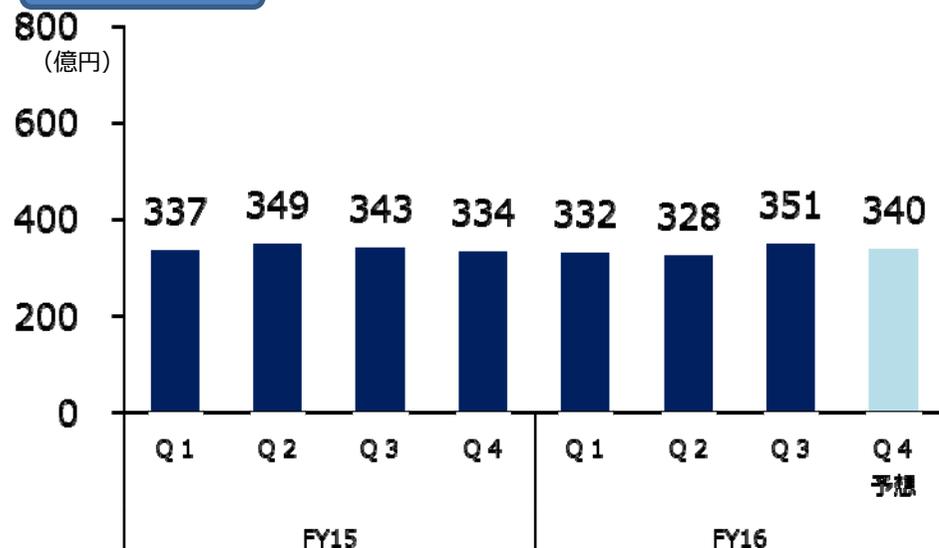
Q4予想

- 銅条・高機能材は、伸銅製品のさらなる改善を見込むものの、開発案件の影響での一時的なコスト増が、Q4にも発生

3 機能製品

売上高

(事業部門: AT・機能樹脂、サーマル・電子部品、メモリーディスク、銅箔)



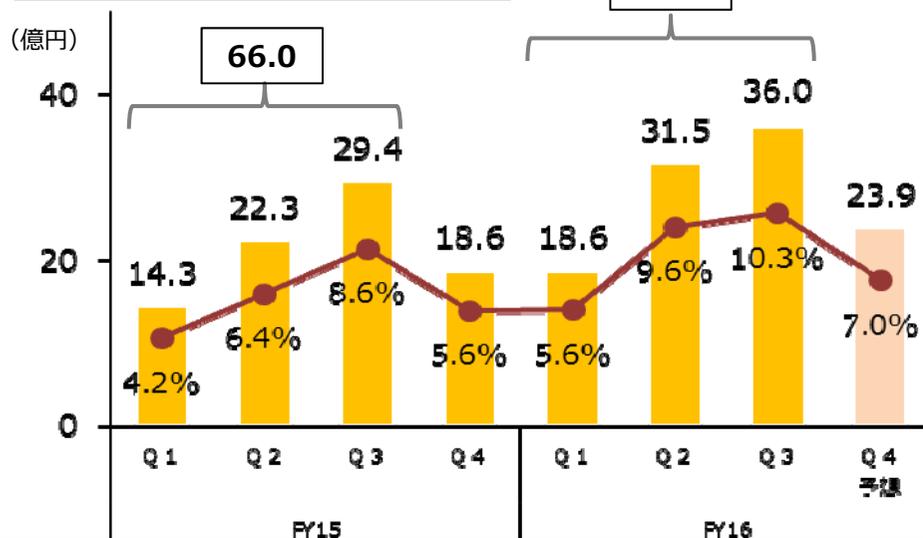
<営業利益の増減内容>

Q3 累計 : 前年差 +20.2億円

□ : 増益要因 ■ : 減益要因

- 半導体製造用テープは、需要増が寄与
- 銅箔は、国内拠点の構造改革効果や台湾への製造移管、付加価値商品の構成比増が寄与
- サーマル・電子部品は、P Cなどエレクトロニクス市場低迷で、減収

営業利益・営業利益率



Q4 予想

- ・ 機能樹脂は季節性でQ3比減益
- ・ 半導体製造用テープは、好調継続

FY16Q3決算…要約B/S

(単位：億円)

	15Q4末	16Q3末	増減	主な増減要因
	a	b	b-a	
流動資産	3,640	3,807	+167	棚卸資産 +118
現金及び預金	525	560	+35	
受取手形及び売掛金	1,870	1,843	▲ 28	
固定資産	3,417	3,548	+131	
有形固定資産	1,965	1,992	+26	設備投資 +204
無形固定資産	85	90	+5	減価償却費 ▲174
投資その他の資産	1,366	1,466	+100	投資有価証券時価評価差額等
資産合計	7,057	7,355	+298	(株)ビスキャスの事業譲受 +72
流動負債	2,993	2,789	▲ 205	
固定負債	2,078	2,319	+241	
負債合計	5,071	5,108	+36	
株主資本	1,809	1,958	+149	純利益増
その他の包括利益累計額	△ 77	8	+85	その他有価証券評価差額金 +118、為替換算調整勘定 ▲63
非支配株主持分	254	281	+27	
純資産合計	1,986	2,247	+261	
負債純資産合計	7,057	7,355	+298	
有利子負債	2,578	2,585	+7	
自己資本比率	24.5%	26.7%	+2.2%	
D/Eレシオ	1.49	1.32	▲0.17	

16年度Q3累計実績と通期予想見直し 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)

	Q3累計			通 期				
	FY15 実績	FY16 実績	前年比	FY15 実績	FY16		前年比	前予比
					前回予想	今回予想		
	a	b	b-a	c	d	e	e-c	e-d
設備投資額	172	204	+32	257	380	340	+83	▲ 40
減価償却費	175	174	▲ 1	232	243	243	+11	0
研究開発費	124	128	+3	168	180	180	+12	0

ご清聴ありがとうございました。

Bound to  *Innovate*